

◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿文」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「日本関連行事等のお知らせ」
- 7 「政治」
- 8 「経済」

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

ケベック州は新型コロナの第二波に直面しており、緊張した日々を過ごしていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナの状況はケベック州をはじめとし、カナダ、米国、ヨーロッパでも猛威を振るっています。ケベック州においては各種活動をシャットダウンしたにも関わらず、新規感染者数が1,000人を超える日が続いています。クリスマス前までには状況が改善することを切に願うところです。皆さま、引き続き感染の防止に心がけてください。

総領事としての活動にも大きな制約がかかっていますが、ケベック州政府との連携は着実に進めています。最近では、ジロー・ケベック州国際関係大臣、ラ・モンターニュ農業・漁業・食料担当大臣、ジュリアン・エネルギー・天然資源大臣等ともテレビ会議を行い、様々な意見交換を行いました。厳しい状況ですが、日本とケベックとの関係強化に向けて引き続き努めて行きます。

最近日本政府による叙勲の発表がありました。

まず、当地在住の高畑雅子氏が旭日双光章を受章されました。同氏は、モンリオール日加協会に昭和42年から参加され、平成元年からは副会長として、同協会が解散する平成30年まで約30年に亘り、同協会の活動を通じて、日本とカナダの交流促進、友好親善に大きく貢献されました。昭和51年にはモンリオール日本語センターの立ち上げにもご尽力され、設立当初から長きに亘り同センターの校長を務められた他、マギル大学においても日本語講座を受け持たれ、当地の日本語普及に功績を残されました。

また、ケベックシティー在住のゲェタン・ラバディ氏が旭日小綬章を受章されました。同氏は、昭和45年より、京都のヴィアートル学園洛星中学校教諭・洛星高等学校教諭として勤務し、平成16年からは同学園理事長に就任されました。約半世紀の間、京都に滞在し、洛星を拠点に、日本での教育に大変な貢献をなされました。同氏は本年3月にケベックに戻られています。ケベック出身の方がこのように日本で大活躍されたことは誠に嬉しい限りです。

さらに、当地在住の沖田豊穂氏が瑞宝双光章を受章されました。同氏はブラジルを含め各国の在外公館において、長らく領事業務に従事したのち、先日外務省を退官し、現在当地にお住まいです。

当地在住者で令和2年秋の叙勲受章者が3名も出たことは、このコロナの状況下において、大変嬉しいニュースでした。今後の私たちの活動の大きな励みとして参りたいと思います。

2 総領事館からのお知らせ

(1) 2020年12月の休館日のお知らせ

2020年12月 24日(木) Christmas Eve (任国の休日)
12月 25日(金) Christmas Day (任国の休日)
12月 28日(月) Boxing Day (任国の休日)
12月 29日(火) 行政機関の休日(年末休暇)
12月 30日(水) 行政機関の休日(年末休暇)
12月 31日(木) 行政機関の休日(年末休暇)

3 寄稿 ～元いけばなインターナショナルモンリオール支部プレジデント 古流松藤会 田中和子～

古来日本人は花を愛でてきました。万葉集には草花が詠まれた歌が1500首もあるそうです。その心が仏への供華の花ともなり、形を整え、芸術としてスタートをしたのは室町時代のことです。いけばなは、江戸時代には茶花の影響を受け、形を変えて諸流が成立し、社会の各層に広がり文化として躍進しました。全てが時の流れのなかで変わるように、生け花もまた変わってきました。その生け花が、今は世界を繋ぐようにもなりました。

「貴女、外国の言葉ができるんだから、あちらで教えてもらいなさいよ。」
くわえたばこでこう言った、根っから江戸っ子の、気っ風のいい家元の一言を背に受け、剣山とハサミと二冊の本(外国で暮らすと貴女の日本への見方が変わるだろうから、そんな時には読むようにと、当時の旧フランス給費留学生友の会の会長から頂いたブルーノタウトの「日本美の再発見」と岡倉天心の「茶の本」)をスーツケースにいれ、モンリオールに発ってから、36年の月日が経ちました。

青空と人々の笑顔の美しいモンリオールにその頃は日系の方々を中心にひっそりと広まっていた生け花は、1971年いけばなインターナショナルモンリオール支部の創立により、確固たる日本文化として、この地に発展してきました。

いけばなインターナショナルは、戦後のアメリカ占領軍の幹部将校夫人が、いけばなに感動し、世界に広めようと1956年に立ち上げたものです。本部は東京、支部第1号はワシントン、東京支部は第2号です。現在は、世界50カ国以上に160を超える支部を持ち、世界にいけばなを広める大きな橋渡しをしています。

いけばなインターナショナルモンリオール支部創立当時は、日本企業も多く、トップのご婦人たちがメンバーになり、花を通じて国際交流と友好を深める場になっていました。地元の名士のご婦人達もメンバーやゲストとして参加し、活気にあふれた社交クラブでもありました。

文化の普及には時間がかかるものです。その頃は、いけばなはまだ限られた世界のものであったため、デモンストレーションでは、

「このいけばなはハウマッチ？これが買いたい。」

「売り物ではありません。創作芸術です。」

「貴女は、いつも着物で暮らしていらっしゃるんですね。ご主人には毎日お酌をするんですか？僕もしてもらいたなあ。」

そうなんだ、いけばなは商品で、いけばなの先生は花をいける芸者なんだ。この目の玉が飛び出すような、予想外の一般の反応に、ここにどうやって文化としてのいけばなを普及させるかが後の大きな課題となりました。

いけばなインターナショナルは、いけばなの普及と文化交流を目的としますので、他流派と共に地元にいけばなの多様な美しさを広め、メンバー同士の交流や他支部との交流を図ります。見知らぬ国のお客様やデモンストレーターは、好奇心と刺激に溢れた楽しい出会いにもなります。

「貴方たちは幸せね、こうして花を活けたり集まったりできるから。私は国に戻れば銃弾の飛び戦地よ。いつこうして花を手にとれるのかしら」

悲しげに語った、パレスチナからのゲストの一言は世界の現状を見る思いでした。

「明日はモンリオールの教会でいけばなのデモンストレーションをするのよ。日本の教会でもローマでもいけたわ。神へ、心を込めて捧げるの、日本の生け花を。」

と語ったのは、パリからのゲストデモンストレーターでした。フランス風に絶えずくつつくご主人には閉口しましたが、神様へ捧げるピュアな心は宗教の差を越えるものかもしれません。

こうした国際交流のいけばなの傍ら、地元へのアプローチとしての場を与えてくれたのは、モンリオール植物園日本館でのいけばなインターナショナル定期華道展です。いけばなに興味がある人や見たこともない人など様々な人たちが、毎年2000人近く華道展を訪れ、いけばなを眺め、日本への興味を深めていきます。メンバーには腕をふるう大事なお披露目の場でもあります。

いけばなインターナショナルの活動とは別に、個人では、モンリオール市文化週間プログラムの一つとして、Chapelle Bon Pasteur で古流松藤会華道展を開催してきました。日本の音楽とのコラボで構成する美の世界に焦点をおき、より市井の人々に寄り添うものでした。鳴り響く和太鼓の音に熱狂する観客の向こうにいけばなが見えます。ここはヨーロッパのクラシック音楽をモンリオールに伝えてきたコンサートホールです。華道展開催条件はただひとつ、日本の音楽をプログラムに入れるようにということでした。

この10年に渡る古流松藤会定期華道展での様々な人たちとの出会いの中で、もっとも記憶に残ったのは、あるロシア女性との出会いでした。コットンの花をどうしても活かたいと言っていたロシア人の生徒のいけばなの前でフリーズしたように1時間、不動で眺め続ける女性がいました。

た。生徒から、ロシアでは、剣山といけばな挟みは女性なら誰でも持っている、それほどいけばなはロシアではポピュラーなのだ聞いた時には驚きましたが、それにしても、初老のこの女性は何故これほどこのいけばなの前で立ち続けるのか。

「お花、お気にいられました？」

「コットンなのよ、このコットンはロシアの歴史なのよ。スターリンそのものなのよ。」

「この生徒もロシア人ですよ。」

「強制労働でコットンの花摘みをさせられていたのよ、少女の頃。蘇ってくるわ、この手の中にあのコットンが。食べるものもなく無い時よ。ノルマができなければ学校には戻れなかったのよ。今は平和な時代になって良かった。」

素晴らしいフランス語を話す女性でした。生徒にその話をすると、

「父はコットン摘みの監督だったのよ。暗くなるまで少女たちと一緒にコットンを摘んでいたわ。私の家の前は見渡す限りコットン畑だったの。ロシアから持ってきたこの剣山でこの花をどうしても活けたくて、いけばなをはじめたのよ。」

知らない所で歴史は回り、いけばなはそれを解きほぐしてくれたかのようにでした。

日本のいけばなは、こうして、一本の花を通し、いけた人の思いを伝え、静かに幾重にも繋がり、国境を越え、新しい世代や社会へと世界を広げているといえそうです。

元いけばなインターナショナルモントリオール支部プレジデント
古流松藤会 田中和子

4 領事便り

(1) 在留状況確認調査（ご協力をお願い）

※海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認させていただいております。

ア 「在留届」の記載事項に「変更」の無い方

在留確認を記録するため、名前（ローマ字）と「変更無し」の一語を返信ください。

イ 引き続き管轄内にお住まいで「住所・電話番号・滞在予定期間等」に変更がある方、既に日本に「帰国」されている方、または他の在外公館の管轄区域に「転出」された方以下のいずれかで手続きをお願いします。

(ア) インターネット（オンライン在留届（ORRネット））から在留届を提出された方
オンライン在留届（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>）での手続きをお願いします。

※ログイン用パスワードを忘れた方は、システムのメニュー「パスワードを忘れた方」ボタンからパスワードの再登録をお願いします。

※「帰国日」または「転出日」が不明な場合はおおよその年月日でも結構です。

(イ) 在留届用紙に記入して届け出られた方

「変更届」(<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/henko.xlsx>) または「帰国・転出届」(<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/kikoku.xlsx>) を提出 (Eメール、Fax、郵送、来館) してください。

※「帰国日」または「転出日」が不明な場合はおおよその年月日でも結構です。

(補足) 上記エクセルシートを利用する代わりに、本メールの返信として「帰国日」または「転出日」と「帰国・転出者の氏名」を記載していただいても結構です。

(ご連絡先) 在モントリオール日本国総領事館 領事班 在留届担当

ホームページアドレス https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

電話 : 1 (514) 866-3429 ★10:00-12:30、13:30-15:00★

F A X : 1 (514) 392-1639 メール : zairyu@mt.mofa.go.jp

住所 : 1 Place Ville Marie、 Suite 3333、 Montreal、 Quebec、 H3B 3N2 CANADA

(2) 領事窓口の開館時間

当地における新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、当館の感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、本年4月1日より当面の間、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

・領事窓口の開館時間

10:00~15:00 (昼12:30~13:30を除く)

※9:00~10:00及び15:00~17:00につきましても、電話照会 (緊急の場合)・メール対応を実施しています。

※来館時の注意点

本年3月25日よりケベック州政府の要請を受ける形で、当館が入居するビル管理会社側が、入居テナント従業員以外の入館を1階受付において制限しています (土日祝日等の休館時対応と同様の措置)。

当館へ来館される方につきましては、1階受付において、氏名とともに在モントリオール日本国総領事館への訪問理由を告げるにより、入館を許可されることとなっています。

(3) 本年度の領事出張サービスについて

新型コロナウイルス流行の影響により、現時点においては領事出張サービスの実施を見合わせている状況です。

今後、各州の状況を注視しつつ、行動・移動制限が緩和されれば、領事出張サービスの再開を検討しますので、在留邦人の皆さまにおかれましてはご不便をおかけしていますが、ご理解賜りますよう宜しくお願いいたします。

(4) モントリオール日本語センターからのお知らせ

ア 2021年度 新幼児1・2募集のお知らせ

来年度の新幼児1クラスの新規生徒を募集いたします。

対象： 2017年4月2日から2018年4月1日生まれのお子様

当センターの主旨を理解していただくために、お申し込み前にホームページにあります『基本概念』及び『センターの決まり』の項をご一読いただきますよう、お願い申し上げます。その後、同ホームページ内のグーグルフォームに必要事項をご記入いただき、12月12日（土）までにお申し込み下さい。

また、新幼児2（生年月日2016年4月2日から2017年4月1日）も併せて募集しております。上記の手順でご応募ください。

日本語センターホームページ：<http://japanesecenter.com/>

申し込み用グーグルフォーム：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScXckmTCar_ja8qiSA9r8KP5uhDxYkCfV48pcGlaZqqTiVITyw/viewform?usp=sf_link

イ 成人クラスの生徒募集

当センターでは、13歳以上の生徒を対象に初級、中級、上級レベルの日本語の成人クラスを提供しています。日本語と日本文化を“まるごと”学びます。現実の場面で使える日本語を学び、日本語を使って「できること」を増やします。日本についてさまざまなトピックを通じて文化を学び、相互理解を深めます。

開催日： 1月8日～3月27日（3月6日は休講）

時間： 午前10時15分～11時45分

レベル： 初心者から上級者まで

場所： ズームプロ経由でオンライン

費用： 11クラスで154ドル

<http://japanesecenter.com/inscription>（フランス語登録用リンク）

<http://japanesecenter.com/registration>（英語登録用リンク）

12月12日までにお申し込みいただくと、第3期登録料の5%をクレジットいたします。

第二学期の登録は11月14日から1月4日までです。スペースに限りがありますので、お早めにお申し込みください。

皆様からのご応募、心よりお待ちしております。

日本語センター役員一同

(5) ハリファックス日本語補習授業校からのお知らせ

ハリファックス日本語補習校では、来年4月からご入学予定の一年生を募集しております。

* 入学対象年齢：2014年4月～2015年3月 生まれ対象

* 募集期間：12月12日までに japaninhalifax@gmail.com へ連絡を下さい。

連絡を頂いた方に、入学、見学案内のお知らせを担当の者より、メールにて送らせて頂きたいと思っております。

また、質問等ございましたら、こちらのメールにご連絡下さい。

皆様からのお問い合わせ、お待ちしております。

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) 当館ツイッターアカウントの開設

当館ツイッターアカウントを開設しました。日本や当館の活動に関する情報を随時発信していきます。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

6 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

(1) オムニバス映画「アジア三面鏡 2018 : Journey」無料配信

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭の共同製作映画「アジア三面鏡 2018 : Journey」が11月30日（月）（日本時間）まで無料配信されています。

<https://jfac.jp/culture/news/n-asian-three-fold-mirror-2-streaming/>

(2) 第24回トロント・リール・アジア国際映画祭

オンライン映画祭。カナダ国内での視聴が可能です。期間中、大林宣彦監督作品「海辺の映画館 キネマの玉手箱」が無料配信（要事前登録）されます。

期間：11月12日（木）～19日（木）

<https://www.reelasian.com/>

(3) モントリオール国際ドキュメンタリー映画祭

オンライン映画祭。ケベック州内での視聴が可能です。日本映画も上映されます。

期間：11月12日（木）～12月2日（水）

<https://ridm.ca/en>

(4) ウェビナー「カンパイ・モントリオール」

ケベック日本酒協会が主催する「カンパイ・モントリオール」が今年オンラインで行われます。参加には事前登録が必要です（無料）。

日時：12月3日（木）19時開始（東部時間）

事前登録：https://zoom.us/webinar/register/WN_qvvEaFV5TKCft5_0TyMzGA

詳細は追ってこちらからご確認ください。

<https://www.facebook.com/associationsakequebec/>

7 政治

(1) ケベック（QC）州

（新型コロナウイルス関連）

・10月6日、ルゴー州首相は州議会で、9月末にジョリエットの病院で職員から差別的な言葉を受けながら亡くなったアティカメク（Atikamekw 先住民族）女性 Joyce Echaquan さんの家族に対し、州政府として正式に謝罪。9日、ルゴー州首相は、ダムール（Sylvie D' Amours）州先住民担当大臣を更迭。後任に警察出身のラフルニエール（Ian Lafreniere）氏を任命。

・10月9日、モントリオール市は、構造的差別対策担当ポストを新設。事務局は3人の専門家で構成され、そのうちの1人は人種差別的な取り締まりの専門家としてモントリオール警察（SPVM）に派遣される。

・10月9日、シャレ（Jean Charest）元州首相は、州自由党の資金調達に関する汚職防止常設ユニット（UPAC）の捜査をめぐる情報漏洩でプライバシーの侵害があったとして、州政府を提訴。

・10月12日、ルゴー政権が州海外事務所の再編を計画中和の報道。米国に人員が増強されるとみられる。日本への言及はなし。

・10月13日、ケベック党（PQ）党首選挙実施の結果、サン・ピエール＝プラモンドン（Paul St-Pierre Plamondon）氏が当選。2度目の出馬で党首となった43歳の同氏は、ケベック州独立問題に関する回答を先送りにしてきた近年の同党の姿勢に終止符を打つと表明している。

・10月16日、ギルボ（Genevieve Guilbault）州公安大臣は、プリュドム（Martin Prud'homme）ケベック警察（SQ）長官の解任プロセスを開始。案件は公務審査会が引き継ぎ調査・決定を行う。

・10月20日、ジラル（Eric Girard）州財務大臣は、州が均衡財政に戻るのには2025年度になるとの見通しを発表。

・10月22日、フランコフォニー国際機関（OIF）ナンバー2でカナダ人のカノ（Catherine Gano）氏は、ムシキワボ（Louise Mushikiwabo）事務総長との「軋轢」のため、任命から2年足らずで辞任。

（新型コロナウイルス関連）

・10月8日、警戒レベル赤の地域における規制強化。

・10月16日、デュベ州保健大臣は、対人接触を更に25%削減するよう全州民に呼びかけ。

・10月20日、アルダ州保健局長は、相次ぐ脅迫のために警察による身辺保護下に入る。

・10月27日、州政府による規制措置強化「28日間のチャレンジ」期間が11月23日まで延長。

・10月28日、州保健研究所（INSPQ）は、州民の75%が衛生上の規則を順守しているとの統計を発表。

(2) ニューファンドランド・ラブラドール（NL）州

・10月6日、ラブラドールのイヌ・ファーストネーションは、QC州営公社ハイドロケベックに対し40億加ドルの損害賠償を求め州上級裁判所に提訴。1969年にNL・QC両州の間で建設合意が締結され1974年に完成したチャーチルフォールズ水力発電所プロジェクトで、イヌの土

地が違法に取られたと主張。

- ・ 10月6日、ボール元首相の議員辞職を受けた補欠選挙実施の結果、フューリー首相が当選し州議会に議席を確保。
- ・ 10月14日、州政府は、2021年1月より、既存の助成金制度を増額・拡大し、対象認可保育施設における保育料を現在の1日30～44加ドルから25加ドルに引き下げると発表。
- ・ 10月28日、フィッツジェラルド州保健局長は、11月2日より、熱と咳どちらか一方の症状があれば新型コロナウイルス検査対象とする旨発表。

(3) プリンズエドワードアイランド (PEI) 州

- ・ 10月8日、連邦政府が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「Covid アラート」の州内運用開始。
- ・ 10月15日、州政府は、より高速のインターネット環境を州内約2,000世帯に提供するため、プロバイダー7社を選定。2020年中にプロジェクトを完了させることを条件に、州政府が総額約100万加ドルを支出し各社費用の最大90%を負担する。

(4) ノバスコシア (NS) 州

- ・ 10月13日、州政府は小規模内閣改造実施。自由党党首選出馬を表明した3大臣の辞任を受けたもの。
- ・ 10月17日、州地方選挙実施。ハリファックスでは3期目を目指すサヴェージ市長が再選。
- ・ 10月22日、4月に州内で起きた銃乱射事件の公開調査開始。調査委員会は公聴会に証人を召喚する権限を持つ。2022年5月に中間報告、11月に最終報告を発表予定。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 10月7日、4～18歳を対象とした検査に、ブリティッシュコロンビア州で開発されたうがい式検査の運用開始。鼻に棒を入れる方式に比べ痛みがなく検査が簡単なのが利点。
- ・ 10月15日、連邦政府が開発した接触確認アプリ「Covid アラート」の州内運用開始。
- ・ 10月15日、渡航先で陰性証明が必要な人向けに PRAXES Medical Group (民間企業) が250加ドルで検査受付開始。
- ・ 10月28日、ハリファックスを含む Central ゾーンで検査のオンライン予約が可能に。他の地域にも順次拡大予定。

(ミクマク・ファーストネーションによるロブスター漁をめぐる動き)

- ・ 10月1日 ケープ・ブレトンのポトロテック (Potlotek) も独自ライセンスによるロブスター漁を開始。
- ・ 10月5日 Comeauville (州西岸) でミクマク漁船が放火される。
- ・ 10月13日 Middle West Pubnico (州南西岸) で約200人の暴徒によりミクマク所有のロブスター関連施設が破壊、車が放火される (施設はさらに3日後の16日から17日にかけて全焼)。同日 New Edinburgh (州西岸) ではミクマクの取引先所有のロブスター関連施設が破壊される。
- ・ 10月17日 ブレア連邦公安大臣は連邦警察を地域に増員配置することを承認。マクニールNS州首相は両者の対立の元となっている「生計を立てるのに適当な範囲」の早急な定義づけを連邦政府に要請。
- ・ 10月18日 サック (Mike Sack) シペクネカティク (Sipekne' katik) チーフは、警察ではなく軍隊の出動を希望すると発言。州都ハリファックスでは数百人がミクマクを支持する集会に参加。
- ・ 10月19日 非ミクマク漁業関係者約100人はNS州内の連邦漁業省事務所前で「生計」漁業の定義づけを求める集会開催。連邦下院は緊急討議開催。
- ・ 10月21日、州上級裁判所は、シペクネカティクの要請に対し、同コミュニティの漁業関連施設に対する妨害・威嚇行為を禁ずる仮差し止め命令を発出。
- ・ 10月21日、ポトロテックは、かご (トラップ) が連邦漁業省により取り押さえられたとし、

これの返還を求め同省事務所前で抗議集会実施。

- ・ 10月23日、連邦政府はミクマク、非ミクマク双方と協議する調停役として元NS州大臣で現サンタンヌ大学学長のサレット(Allister Surette)氏を任命。
- ・ 10月25日、NSミクマクチーフ議会は、シペクネカティック以外の州内12のミクマク団体を代表して進めていた「生計」漁業についての連邦漁業省との話し合いが決裂したと発表。

(5) ニューブランズウィック(NB)州

- ・ 10月5日、州内のウォラストケ・ファーストネーション6団体は、州土の西半分に対する先住権原を政府が認めることを求めて連邦政府と州政府を提訴。先住権原が認められれば土地の使われ方について決定権を持てる。
- ・ 10月7日、州議会でビル・オリバー進歩保守党議員が議長に選出。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 10月8日、州政府は、PEI州とNS州との陸路の州境の取り締まりを終了。今後はQC州とアメリカとの州境・国境の取り締まりを強化する。
- ・ 10月9日、州全域で屋内公共施設におけるマスク着用義務づけ開始。また州境を接するQC州側ListugujファーストネーションとPointe-a-la-Croixに限定して継続していた自主隔離なしの日帰り往来措置が中止される。QC州側に居住するグレード8(日本の中学3年生に相当)までは引き続き越境通学できるが、高校生以上は13日より遠隔授業となる。
- ・ 10月10日、クラスターが発生したモンクトンとキャンベルトンを含むゾーン1とゾーン5で警戒レベルがオレンジに引き上げに。同2地域では屋外でもマスク着用が義務付けられる。
- ・ 10月23日、ゾーン1は警戒レベルが黄色に引き下げに。ゾーン5は引き続きオレンジレベルのまま規制が強化され、住所の違う世帯同士の往来が禁止となる。

(6) 各州世論調査結果(未確定分は除く)

ア 州議会選挙(政党支持率)

- ・ QC州(レジェ(Leger)調べ、10月16~18日): ケベック未来連合(CAQ)50%、自由党(PLQ)18%、ケベック党(PQ)16%、ケベック連帯(QS)13%、その他3%

イ 連邦議会選挙(政党支持率)

- ・ QC州(レジェ(Leger)調べ、10月2~4日): 自由党33%、ブロック・ケベコワ(BQ)33%、保守党13%、新民主党(NDP)12%、緑の党6%、その他2%

ウ ケベック州の独立

- ・ QC州(レジェ(Leger)調べ、10月16~18日): 賛成36%、反対54%

8 経済

(1) QC州

- ・ 10月8日、モンリオール観光局は、あらゆる統計において、2020年夏のモンリオール観光は100年の同機関の歴史の中でも最悪であったと発表。23日、モンリオール観光局、州内の観光関連企業・団体が「ケベック観光業経済会議」を発足。バシャン(Raymond Bachand)元州観光大臣を代表に、業界の危機を脱するための戦略を策定する。
- ・ 10月14日、デルタ航空は、エアバスがミラベル工場で製造するA220型17機の納入を2022年まで延期要請。デルタ航空は同じくミラベル工場で製造されるCRJ型も4機発注済みであるが、CRJ事業は2020年いっぱい終了する予定となっている。
- ・ 10月15日、州大麻販売公社(SQDC)は、2020年度は闇市場を半分近く縮小させ、目標としていた5、000万加ドルの収入を州政府にもたらすという予測を発表。

- ・ 10月16日、裁判所は、ケベック投資公社(IQ)と英パリングハースト(Pallinghurst Group)が同等の株式を保有するネマスカリチウム(以下ネマスカ)の再編成を承認。ネマスカにはソフトバンクが出資し株主となっていたが、新会社設立によりその株は失われた。
- ・ 10月23日、ユニクロは、ケベック州第1号店をモントリオールのイートンセンターに開店。パンデミックにも関わらず、開店式はプラント・モントリオール市長が駆け付けたほか、数千人が店舗を訪れた。
- ・ 10月23日、連邦政府は、メディカゴ(田辺三菱製薬連結子会社、本社ケベックシティ)の新型コロナウイルスワクチン開発支援のため最大1.73億加ドルを支出するとともに、同ワクチンを7,600万本仮予約したと発表。トルドー連邦首相はまた、国内の他のワクチン候補支援のため4,100万加ドルを支出すると発表した。
- ・ 10月27日、都市地域交通局(ARTM)は、モントリオール圏における車移動を減らし公共交通機関の利用増加を目指すため、今後10年間で455億加ドルを支出し60%の増便を行うと発表。
- ・ 10月29日、豚肉加工大手オリメルの工場でクラスター発生。ボースのVallee-Jonctionで126人が感染したほか、州内の別の2工場でも感染発生。地元保健局は、Vallee-Jonction工場閉鎖は勧告せず。
- ・ 10月29日、州政府は、リチウム、グラファイト、ニッケル等、電子機器やバッテリー向けに需要の高い22の戦略的鉱物の州内埋蔵状況を調査するため、5年間で9,000万加ドルを支出すると発表。データは公開される予定。

(2) 大西洋州

- ・ 10月6日、VIA鉄道は、11月1日から再開する予定であったモントリオール・ハリファックス間を運行するマリタイム路線の無期限運休を発表。
- ・ 10月14日、ウェストジェットは、11月2日より座席供給量の80%にあたる週100便以上の大西洋路線を無期限運休にすると発表。同社はモンクトン、フレデリクトン、シドニー、シャーロットタウン、ケベックシティの5空港から撤退する。

(3) NL州

- ・ 10月1日、小売店における使い捨てプラスチック袋の使用を禁止する改正環境保護法施行。
- ・ 10月1日、最低賃金が時給11.65加ドルから12.15加ドルに引き上げ。
- ・ 10月5日、パンデミックによる需要低迷のため3月に閉鎖が発表された、州内唯一のCome-by-Chance(ニューファンドランド島東部)製油所について、同製油所親会社と石油大手アーヴィング・オイル(本社NB州)との買収交渉が決裂。8日、米企業Origin他1社が同製油所買収希望を表明。
- ・ 10月5日、ブラジルの資源大手ヴァーレ(Vale)が電気自動車向けニッケル供給の可能性についてテスラと協議中との報道。ヴァーレはラブラドル Voisy Bay に保有するニッケル鉱山が現在拡張工事中。
- ・ 10月8日、オフショア石油開発を行うサンコー(本社カルガリー)は、テラ・ノヴァ(Terra Nova)油田で100人を解雇すると発表。テラ・ノヴァはパンデミックのために延命工事が棚上げになっていた。ホワイトローズ(White Rose)油田拡張プロジェクトが中断しているハスキー(本社カルガリー)も従業員解雇を発表(人数は明らかにせず)。
- ・ 10月16日、オリガン連邦天然資源大臣は、ハスキーが求めていた連邦政府によるホワイトローズ油田プロジェクトへの出資の可能性を明確に否定。
- ・ 10月21日、ノルウェー企業グリーグ(Grieg)の子会社グリーグNLは、パンデミックによるサケの価格低迷を理由に、同社がメアリーズタウン(ニューファンドランド島南部)に建設中のサケ養殖場プロジェクトの延期を発表。約200人が職を失う。
- ・ 10月26日、ハスキーは、ホワイトローズ油田拡張プロジェクトを2021年いっぱい中止すると発表。プロジェクトは60%完成しているが、ハスキーは前日にカルガリーのライバル企業セ

ノヴァス (Genovus) による買収が発表され、工事が 2022 年以降再開されるのかどうかはさらに不透明に。

- ・ 10月29日、エクイノール (Equinor) は、セント・ジョンズ東方沖約 500 キロメートル付近のフレミッシュ・パス海盆における試掘の結果、2 地区 (Cappahayden and Cambriol) で新たな油田を発見したと正式に発表。エクイノールは 3 月には、ハスキー他と共同で開発予定であった同海盆のベイ・デュ・ノール (Bay du Nord) プロジェクトを延期しており、新たに見つかった油田を開発するかどうかは未定。

(4) PEI 州

- ・ 10月21日、同州の 8 月の小売売上高はパンデミック前の水準には達しなかったものの前月比 7% 増となり、全国平均 (0.4% 増) を大きく上回った。衣料品のみは年初来マイナス 33% で全国平均並。

- ・ 10月22日、9月に州環境省が承認した州公社 P. E. I. Energy Corporation による風力発電所拡張プロジェクトについて、地元 Eastern Kings (州東端) 議会は費用を理由に否決。同プロジェクトは、新たに 7 基の風力タービンを設置して、30メガワットの電力を近隣地域に供給する計画であった。

(5) NS 州

- ・ 10月5日、3月から事業の一部または全部の売却を検討する水産大手クリアウォーター (Clearwater、本社ハリファックス) の売却先について、大西洋州のファーストネーションが関わる Premium Brands Holdings Corp (本社バンクーバー) が最有力であるとの報道。

- ・ 10月8日、配車サービスのウーバー (Uber) が 2020 年末までにハリファックスに進出すると発表。前月に州政府は配車サービス業界進出促進のため運転免許に関する規制緩和を行っていた。

- ・ 10月16日、州政府は、観光業界向けに 5、000 万加ドル支出する新たなローン保証プログラム (Tourism Sector Financing Assistance Program) を発表。2020 年 4~8 月に収益が半減した 2019 年に従業員 100 人以上、年間収益 1、000 万加ドル以上であった大手事業者が対象。

- ・ 10月30日、小売店における使い捨てプラスチック袋の使用を禁止するプラスチック袋削減法施行。PEI、NL に続き国内 3 州目。

- ・ 10月31日、新たに開店する飲食店のバリアフリー義務付け開始。座って飲食できるスペースを設けるレストランやカフェ等が食品安全免許 (food safety permit) を取得するためには、出入口、通路、トイレがバリアフリーであることが条件となる。

(6) NB 州

- ・ 10月1日、モンクトン、ディエップ、リバービューで小売店における使い捨てプラスチック袋使用禁止開始。

- ・ 10月1日、州大麻販売公社「カナビス NB」は、2020 年第 2 四半期の売り上げは 2、000 万加ドル、利益は 330 万加ドルといずれも史上最高額を記録。

- ・ 10月8日、スコット＝ウォレス州観光大臣は、州内観光地を訪れると最大 20% 割引になるインセンティブプログラムについて、7 月から現在までに 1.3 万人の州民が利用し総額 180 万加ドルを支出したと発表。同プログラムは 10 月末までの予定であったが 2021 年 3 月まで延長する。

- ・ 10月28日、水産大手クック・アクアカルチャー (Cooke Aquaculture、本社 NB 州) の子会社 True North Seafood は、米マサチューセッツ州の水産加工企業 Mariner Seafood を 275 万米ドルで買収。

[在モンテリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから送信されています。本メールあてに直接返信なさないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。 emagazine@mt.mofa.go.jp

○配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、 emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡願います。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モンテリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○バックナンバーの閲覧は、以下のホームページからお願いいたします。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（ www.kantei.go.jp ）

外務省ホームページ（ www.mofa.go.jp/mofaj/ ）

在カナダ大使館ホームページ（ www.ca.emb-japan.go.jp ）

当館ホームページ

（ https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html ）

当館 Facebook（ www.facebook.com/JapanConsMontreal ）

当館 Twitter：@JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モンテリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333、

Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当（ emagazine@mt.mofa.go.jp ）までご相談ください。

■-----■